

年 組 名前：

コンテナ型水循環機 開発

災害時 シャワーや洗濯に利用可

甲府の企業 道の駅で実験へ



コンテナ型水循環システムのイメージ

外部の電力網などに依存しないオフグリッド技術の開発などを手がけるスタートアップ(新興企業)の「INNFR A(インフア)」(甲府市丸の内2丁目、川島壮史社長)は、コンテナ型水循環システムを開発した。シャワーや洗濯などができる設備を併設し、使用した水を浄化した上で循環させることで、水源が長期間なくても稼働できる。9月末までに富士川・道の駅富士川に設置し、実証実験を始める。(山本昂輝)

同社によると、水循環システムはトイレの水を除いた生活排水の浄化が可能で、微生物による生物処理と特殊な膜を使用した膜処理を組み合わせている。平常時には1日千リ、災害などの非常時には5千リの水の供給を想定している。新たに水の補給をしなくても1カ月以上の利用ができるという。

水循環システムを搭載したコンテナのサイズは幅2・5リ、奥行き4リ、高さ2・3リ。シャワーや洗濯、手洗いなどができる設備を併設する。トラックなどに搭載して移動が可能で、災害時に水源

がない場所でも活用できるという。

災害時は断水していても避難所に飲料水などは確保されているケースが多いが、シャワーなどに使える生活用水が不足するケースがあるという。水源がなくても水を循環させて繰り返し使用できる設備を開発することで、地方自治体などへの販売が可能と考えた。県の社会実装サポート事業に採択されている。

9月末までに道の駅富士川に設置する予定で、利用状況などを検証していく。運用に問題がなければ県内外の自治体に展開していく方針。

川島社長は「被災が想定される地域では自立的な備えが重要になる。当社のシステムで、災害時はもちろん平常時も利用できるフェーズフリー型の水供給を実現させたい」と話している。

(2025 年 3 月 11 日付 山梨日日新聞 7 面)

問1

「オフグリッド技術」とは、どのような技術ですか。

.....

問2

甲府市の企業が開発したコンテナ型水循環システムは、どのようにして生活排水を浄化しますか。

.....

問3

コンテナ型水循環システムは、どのような場面の活用が期待されていますか。

.....